

7. 大阪湾・瀬戸内海

大阪湾は瀬戸内海の東側に位置し、周囲を陸に囲まれた閉鎖性水域である。瀬戸内海沿岸では、昭和48年に瀬戸内海環境保全特別措置法が制定されて以降、COD総量規制やりん等の削減指導、下水道整備などが行われており、水質は全体的には改善してきたが、近年は横ばい状態である。また、依然として赤潮が発生し続けている。

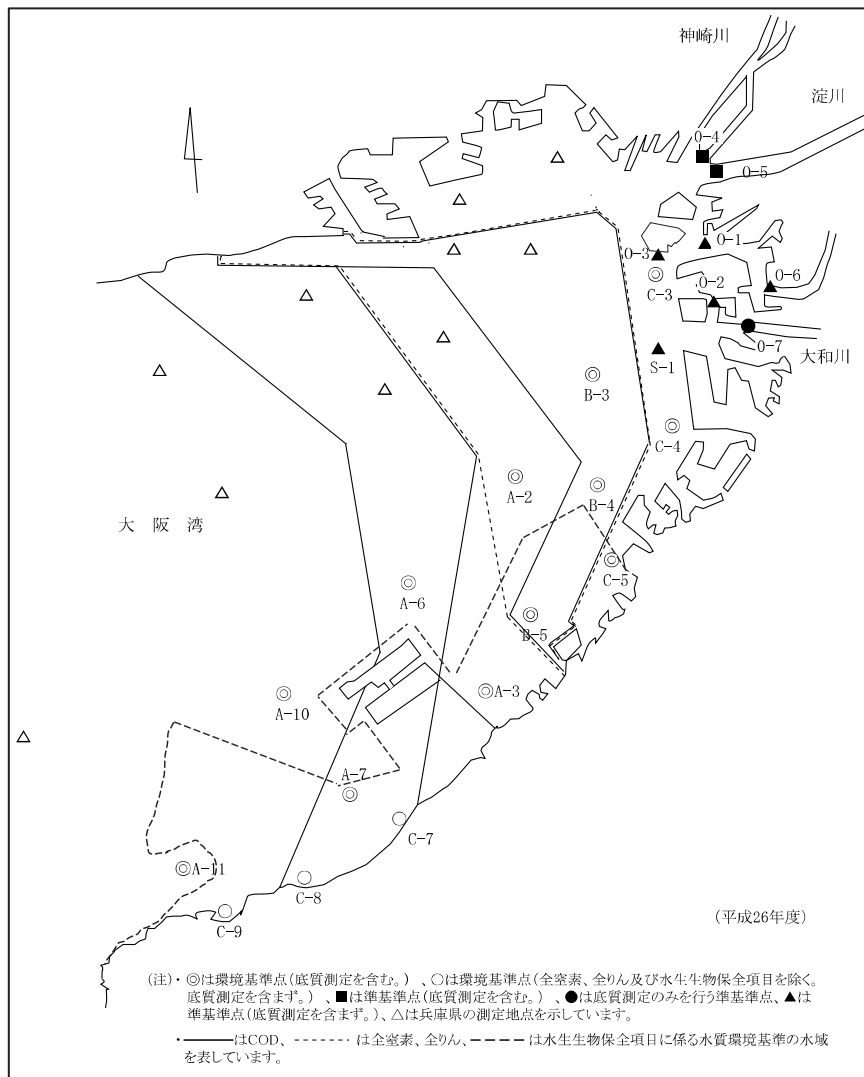
(1) 大阪湾内の水質

大阪湾は、A、B、Cの3海域に分け、それぞれ類型指定されている。CODは、表層、底層とも湾奥部になるほど高くなる傾向を示している。C海域では環境基準(C:8mg/L)を達成しているが、A、B海域では環境基準(A:2mg/L、B:3mg/L)を達成していない。

平成28年度のCODの年平均値はA、B、C海域、それぞれ2.3、2.9、3.3mg/Lであった(図3-66)。湾全体の透明度の年平均値は、昭和54年頃までは3m台前半であったが、年ごとの変動はあるものの、徐々に高くなっている。平成28年度は4.5mであった(図3-67)。

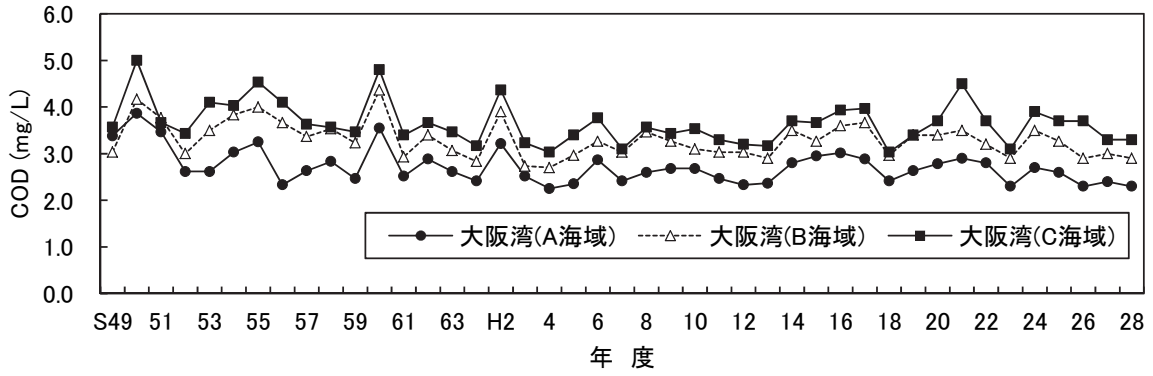
(2) 大阪湾での赤潮の発生

大阪湾は、閉鎖性水域であるため、富栄養化に伴う赤潮が発生しやすい。平成28年の赤潮発生件数は17件であった(図3-68)。



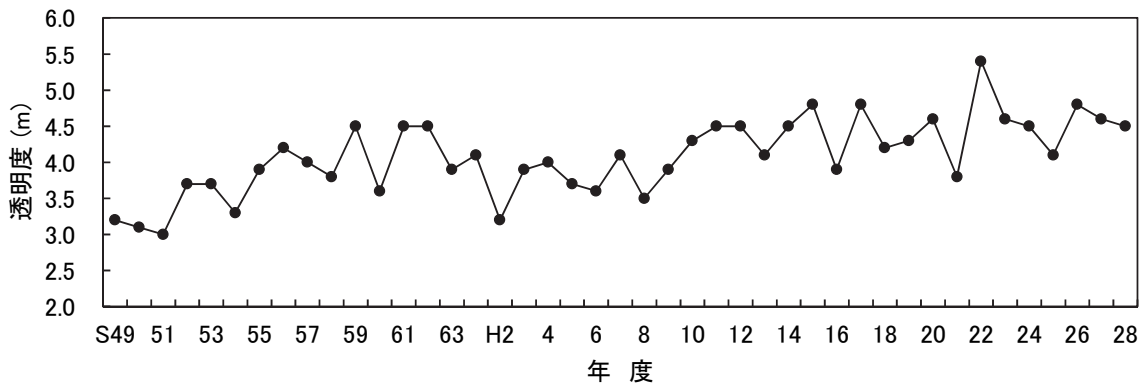
【図 3-65 大阪湾の海域】

大阪府「環境白書」より作成



【図 3-66 大阪湾の COD(年平均値)の推移】

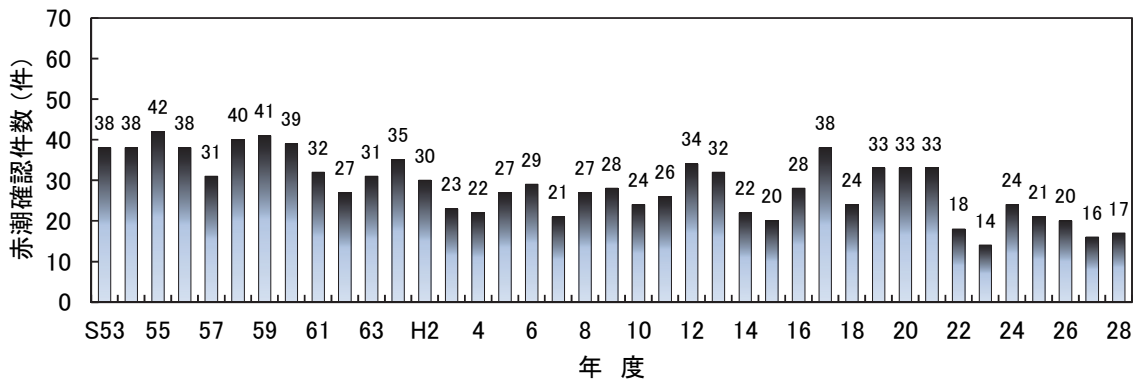
注) 採水地点：表層(水深 1.0m)



【図 3-67 大阪湾の透明度(年平均値)の推移】

注) 数値は湾内 15 地点の平均

大阪府 HP「公共用水域の水質等調査結果」より作成
平成 28 年度の値は、平成 29 年 8 月 24 日時点でホームページに掲載されている暫定値で記載



【図 3-68 大阪湾の赤潮確認件数の推移】

注) 複数の灘にわたる延べ水域を計上

水産庁瀬戸内海漁業調整事務所「瀬戸内海の赤潮」より作成